別紙

第19回環境保全型農業推進コンクール受賞者一覧
（九州・沖縄ブロック関係）

（1）最優秀賞（農林水産省生産局長賞）

○熊本県八代市　やつしろ菜の花ファーム９８７（環境保全型農業分野）

（2）優秀賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞）

○長崎県雲仙市　吾妻旬菜　株式会社（有機農業分野）

○熊本県宇土市　株式会社　那須自然農園（有機農業分野）

（3）優秀賞（全国農業協同組合中央会会長賞）

○鹿児島県曽於市　そお鹿児島農協ピーマン専門部会（環境保全型農業分野）

（4）奨励賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞）

○佐賀県武雄市　農事組合法人　ハッピーファーマーズ（有機農業分野）

○熊本県水上村　水上村良質米生産部会（環境保全型農業分野）

○大分県九重町　ＪＡ九重町飯田水稲部会（環境保全型農業分野）

○沖縄県南城市　株式会社　みやぎ農園（環境保全型農業分野）

（5）特別賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞）

○大分県臼杵市　臼杵市有機農業推進室（活動支援団体）

最優秀賞（農林水産省生産局長賞）

第19回環境保全型農業推進コンクール応募事例取組要旨

分　野	環境保全型農業		
応募区分	一般農業者		
氏名・名称	やつしろ菜の花ファーム987　代表　岡　初義（熊本県八代市）		
規　模	４戸	環境保全型農業	菜の花・水稲・い草
		作付面積等	菜の花　10ha、水稲　7ha、い草　3．7ha

【取組の内容】

1　取組の開始

平成18年：農家で「やつしろ菜の花部会」を設立

（取組内容）

・い草の低迷により生じた遊休地を利用し、菜の花を栽培することにより、循環・環境農業を実践

・平成２３年３月に全線開業する新幹線沿線を菜の花畑の名所にしてPR

・「九州新幹線沿線は菜の花畑」が合言葉

平成２３年７月：「やつしろ菜の花ファーム９８７」へ組織変更

（年間活動）

九州新幹線沿線は菜の花畑　咲かせよう３０００万本

菜の花畑から始まる農業体験・イベント

２月　菜の花畑案山子制作、展示（保育園・幼稚園、一般２月～４月１００名）

３月　菜の花ウォークラリー　参加者２００名～３００名

スタッフ４０名（八代農業高校・県立大学・八代市商工会）

菜の花コンサート　参加者２００名

秀岳館　地元音楽愛好会

４月　出前授業　４０名　文政小

５月　菜種の収穫

６月　菜の花米田植え（小学生・県立大学生・一般）６０名　八代地酒を楽しむ会　２００名

８月～菜の花畑ハッピーオーナー募集　一年間（全国募集）１００名　地酒列車　４０名

１０月　菜の花の種まき　５０名～１００名　文政小　県立大　一般

小学校稲刈り　４０名　文政小

１２月　出前授業　４０名　文政小

2　実践・工夫している農業技術

菜種の油粕を利用した自家製有機肥料（ぼかし肥料）約７t（基肥散布６０kg／１０ａ）を田に施し、除草剤を使わず、酢・焼酎・にがり・黒砂糖発酵液・紅塩などの散布による病害虫防除を行い、極力農薬を使わない米づくりを実践している。

3　経営内容

菜の花栽培では、まぼろしの菜の花蜂蜜や貴重な国産菜種油を抽出。生産したお米は、「菜の花米」として地元の物産館等にこだわり販売するとともに、地酒や玄米黒酢などを商品化している。

4　地域等への影響

商品化した蜂蜜や菜種油、地酒等を地元で販売することで、地産地消を進め、地域の活性化に貢献している。

また、菜の花畑での体験農業や菜の花畑オーナー制度を通じた地域・都市交流や、各学校等（小学校、中学校、高校、大学、一般）への出前授業による食育活動を行うことにより、消費者への理解促進を図っている。

5　取組の成果と今後の展望

菜の花案山子祭り、菜の花ウォークラリー、菜の花コンサートなどのイベントには毎年多くの参加があり、地域活動として定着している。

今後は、菜種油の回収からBDF（バイオディーゼル燃料）を再生し、農機具（トラクター・コンバイン等）に使用し、CO_2削減農業から温暖化防止に一役貢献したい。更に、みんなで取り組む耕作放棄地活用事業（イエロープロジェクト）に取り組むとともに、将来的には環境農業モデル都市八代を作りたいと活動している。

やつしろ・元気づくり大賞活動発表会（Ｈ１９）大賞受賞

ストップ温暖化一村一品大作戦熊本大会（Ｈ１９）優秀賞

地域づくり「地域の夢」大賞発表会（Ｈ２１）大賞受賞

［地産地消］の仕事人として農林水産省選定（Ｈ２２）

熊本県農業コンクール　食と農部門　優良賞・特別賞受賞（Ｈ２２）

六次産業化ボランタリープランナー　農林水産大臣認定（Ｈ２３）

優秀賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞）

第１９回環境保全型農業推進コンクール応募事例取組要旨

分　野	有機農業		
応募区分	一般農業者		
氏名・名称	吾妻旬菜　株式会社（長崎県雲仙市）		
規　模	3戸5人	主要作物名	露地野菜（たまねぎ、にんじん、だいこん等）
		作付面積等	12.6 ha

【取組の内容】（※下記の「記入方法」の内容について、アピールする部分などを簡潔に記入して下さい。）

①取組の開始年次

・1986 年(S61)頃、吾妻町有機農業研究会（会長:岩崎政利）に入会し勉強会、交流を開始。

・有機農業研究会で出荷先ごとに 3 グループにわかれ、長崎ECOF(えこふ)(Ecological Organic Farmers '=生態系を大事に考える百姓達のグループ)と命名。（出荷先：大阪ビオマーケット）。

・1999 年（H11）より模擬認証に取組み、2001 年(H13)に有機認証を取得。全量有機 JAS 認証で出荷

・2007 年(H19)長崎 ECOF の構成員のうち 3 戸(5 名)で株式会社を設立。

・2008 年(H20)諫早湾干拓地での有機農業開始

②実践工夫している農業技術、経営内容、地域等への影響（環境保全、消費者等への理解促進等）

・地元畜産農家の堆肥投入による土づくり、夏場の太陽熱土壌消毒技術、機械除草による除草

・地元雇用(正職員 7 人、常時パート 6 人、臨時パート 5 人、シルバー人材数人)による作業管理

・耕作放棄地の活用(0.5ha)、及び諫早湾干拓地への入植(4.4ha)による有機農業の規模拡大→12.6ha(35 筆)

・消費者を招いての収穫祭、自分達が出向いての交流会等を通じ、有機農業に関し理解促進を図る。

・雲仙市有機農業ネットワークに参画し、情報交換。

・ながさき実り恵み感謝祭「有機農業の部」で消費者への理解促進

③取組の成果と今後の展望等

・後継者育成により有機農業をつなぎ広めていくのが課題

・販売先について一極集中に出荷していたが、経営的には危険分散を徐々に進めていきたい。
また、規格外農産物の加工など、6 次産業化にも取り組んでいきたい。

優秀賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞）

第19回環境保全型農業推進コンクール応募事例取組要旨

分　　野	有機農業		
応募区分	一般農業者		
氏名・名称	株式会社 那須自然農園　（熊本県宇土市）		
規　　模	１戸（４人）	主要作物名	水稲
		作付面積等	18ha

【取組の内容】

昭和55年から無化学肥料・無農薬による稲作を父と共に始めました。当初は雑草が多くて「ガンズメ」という手押し除草機と手取りで、除草作業が大変でした。その後、米ヌカ等の有機肥料を発酵させたボカシ肥により、田面に「トロトロ層」が出来て雑草が少なくなっていきました。これを機に規模拡大を行い、現在は有機認証の水田が2．8ha あり、他の水田でも有機水田と全く同じ栽培方法で稲作を行っています。

平成19年に法人化して、野菜の有機栽培の規模拡大や有機野菜を使ったそうめんやうどん、ドレッシング等の食品加工も行い直売所等で販売しています。

また、地域の若者にも有機栽培に関心をもつ者がいて、2名雇用しています。今後は、彼らを中心に地域の若者や障害者の働く場となるようにもう少し規模拡大していきたいと考えています。

優秀賞（全国農業協同組合中央会会長賞）

第１９回環境保全型農業推進コンクール応募書

分　野	環境保全型農業		
応募区分	一般農業者		
氏名・名称	そお鹿児島農協ピーマン専門部会		
規　模	81戸	主要作物名	冬春ピーマン
		作付面積等	22．3ha

【取組の内容】

1　産地の取組概要

そお鹿児島農協ピーマン専門部会は，昭和 43 年に設立。現在 81 戸の生産者で構成されており，栽培面積は 22.3ha で県内第2位の産地となっている。また，「志布志のピーマン」は平成 21 年5月に「かごしまブランド」として指定を受け，今日に至っている。

部会では，単にコスト削減というだけではなく，未来につながる環境保全型農業への意識が高く，化学合成農薬低減技術（IPM）や適正施肥，CO_2排出量低減等に積極的に取り組んでいる。

2　実践・工夫している農業技術

（1）化学合成農薬低減技術の確立・普及（IPM への取組）

平成 15 年度からピーマンの新規参入者研修機関である農業公社を中心に，ハウス内において，天敵の実証試験を行っていた。その成果をもとに，部会全体で取り組むことに合意し，平成 22 年には，全部会員へのスムーズな波及を目的に「天敵リーダー会」（部会3役，12 支部長，JA，県）を設置した。

平成 22 年産より全部会員が天敵（スワルスキーカブリダニ）の試験的な導入を開始し，平成 23 年産からは，全部会員が全ハウスで天敵を導入している。現在は複数の天敵利用と土着天敵の利用等，天敵の高度利用技術の確立に取り組んでいる。その結果，平成 23 年産の化学合成農薬使用平均回数については，県の定めた「持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針」の化学合成農薬使用回数 42 回を大幅に下回る 23 回にまで低減することができた。

〈工夫している農業技術〉

①天敵に優しい農薬の使用

病害虫に対する防除は，天敵に影響の少ない農薬等を使用する体系を作り，実践している。

②温存植物の利用

天敵を害虫の増減に左右されず温存し，長期的な害虫抑制を図るために，天敵が必要とする餌（花粉，花蜜）となるバジル，オクラ等をピーマンハウスの谷部に植栽している。

③土着天敵の利用

土着天敵が増殖しやすい植物をハウス外に植栽し，天敵が増殖した段階で，ハウス内に植物を導入することで，土着天敵を利用する取り組みを平成 24 年度から試験的に開始した。

（2）適正施肥による土壌理化学性の改善

平成 22 年度により，部会内に「技術部会」を設置し，検討と実証を行い，その結果を部会全体に波及させることとした。

〈工夫している農業技術〉

土壌診断の結果を踏まえ，圃場に残存している肥料養分量を基にどの肥料成分も過剰にならず，かつ肥料バランスが保たれるように次作で使用する肥料を選定し，処方箋を作成する「土壌分析処方箋システム」を作成した。このシステムを活用し，圃場準備期間に個別カウンセリングを実施し過剰施肥の抑制を図っている。

（3） CO_2排出量低減に向けた取り組み(ヒートポンプの活用)

CO_2排出量削減・燃油価格高騰の対策として平成 23 年に部会内に「ヒートポンププロジェクトチーム」を設置し，実証試験を行った。実証の結果，従来の温風暖房機と比較し重油使用量が約 50%，CO_2の排出量も約 11t／10a（34%）削減できることが実証された。事業も活用し，平成 25 年度において当部会のヒートポンプ普及率は約 80%となる見込みである

〈工夫している農業技術〉

ヒートポンプの導入による，重油削減効果を把握するために，実証ハウスにおいて，重油流量計を設置し，ヒートポンプを設置したハウスでの重油暖房機での重油使用量を正確に把握することができた。

このことにより，ヒートポンプを導入した場合のコスト削減効果が正確にシミュレーションすることができた。

（4） その他（安心・安全への取組）

①「K－GAP」の認証取得

農業生産工程管理（GAP）手法を全国に先駆けて取り入れた鹿児島県独自の制度である「かごしまの農林水産物認証制度（K－GAP）」には平成 20 年から取り組み，これまで5年継続で認証を受けている。

②「エコファーマー」への取組

H25 年 4 月に部会全員でエコファーマーを取得

3 経営内容

平成 24 年度産は，農家平均で 10a単収 12.9t，kg当たり 407 円の実績があり，平均的な 30a経営で 15,750 千円の売上げとなっている。

4 地域等への影響(環境保全・消費者等の理解促進等)

（1） 志布志市は，環境に優しいまちづくりに取り組んでいる中で，ピーマン部会の取り組みは，具体的な実践事例として評価されている。

（2） 地域での環境保全型農業に対する意識を高めることとなり，ナスやいちご等での天敵利用や，花きでの利用実証，茶やキャベツ等露地作物での土着天敵利用の取り組みも始まるなど地域に取り組みが拡がっている。

（3） 部会員による消費地量販店での試食宣伝会を継続的に実施しており，産地の正確な情報を消費者に提供するとともに，消費者からの声を収集し部会活動に反映することで，消費者に顔の見える野菜作りに努めている。

5 取組の成果と今後の展望

（1） 部会員は，志布志市農業公社の研修を終えて就農した新規参入者が全体の 6 割を超えているが，環境保全型農業を部会全体の共通目標として取り組むことで部会の活性化に繋がり，そのことで強固な産地が形成されている。

（2） 天敵利用や施肥改善により安定した品質や収量が確保されるとともに，ヒートポンプ導入によりコスト低減が図られ経営の安定に繋がっている。

（3） 今後は，天敵温存ハウスの設置や土着天敵の利用拡大を図り，天敵による効果的な害虫防除を進める。

奨励賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞）

第１９回環境保全型農業推進コンクール応募事例取組要旨

分　野	有機農業		
応募区分	一般農業者		
氏名・名称	農事組合法人　ハッピーファーマーズ（佐賀県武雄市）		
規　模	1 集落営農組織と 4 農家	主要作物名	レモングラス
		作付面積等	3ha

【取組の内容】（※下記の「記入方法」の内容について、アピールする部分などを簡潔に記入して下さい。）

・平成 19 年から武雄市が「収益性の高い、やりがいのある農業の確立」を目指して新たな特産品づくりを開始し、その取組としてレモングラスの試験栽培に協力した 1 集落営農組織と 4 農家が中心となり、平成 20 年 2 月に「農事組合法人武雄そだちレモングラスハッピーファーマーズ」を設立し、活動を開始した。

・ほ場周辺の草や株分けした親株をすき込み、土づくりに努めている。また、市内の養鶏農家から譲り受けた鶏糞を肥料として施用し、追肥として有機かつおエキスの散布を行っている。

・収穫後のレモングラスの残さを市内の養鶏場に飼料として供給し、養鶏場からは肥料となる鶏糞を譲り受けることで、耕畜連携を行っている。栽培ほ場については、積極的に耕作放棄地の再生や遊休農地の利活用を図っており、地域の農地の維持・保全に貢献している。

・平成 20 年 10 月にほ場の一部で有機農産物認定、平成 22 年 3 月に有機加工食品認定を受け、生産から加工まで一貫して管理でき、消費者の求める安全・安心なものづくりを行っている。

・平成23年度には加工所・商品の梱包発送・直売・レストラン機能を集約した「レモングラスティーハウス」をオープンし6次産業化にまで発展させ、安定した経営を確立した。レモングラスを武雄の新しい特産品として定着させ、地域を巻き込んだ村おこしの役割を担っている。

奨励賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞）

第19回環境保全型農業推進コンクール応募事例取組要旨

分　　野	環境保全型農業		
応募区分	一般農業者		
氏名・名称	水上村良質米生産部会　代表　尾前　誠二（熊本県球磨郡水上村）		
規　　模	構成農家９戸	主要作物名	水稲
		作付面積等	6ha

【取組の内容】

1　活動のきっかけ

平成元年に「水上村水稲生産部会」を設立し、ＪＲ九州と協力して米づくり体験イベントを実施したところ、４８０人が参加して大成功に終わり、翌年以降も継続することになった。

その後、平成３年に熊本市の福田病院（産婦人科・小児科）の関係者が初めてイベントに参加し、「安心して食べられる無農薬米を病院食として提供したい」との声が寄せられたことをきっかけに、平成４年に部会名を「水上村良質米生産部会」に改称し、米の無農薬栽培に取組むことになった。

2　活動内容

部会員９名のうち７名で無農薬栽培米（「有作くん100」4名、JAS有機認証３名）を生産し、全量を福田病院に販売している（平成２３年１０，１７０kg。なお残り２名は減農薬による「有作くん」の認証を受け、卸業者を通じて販売）。同院では、本部会の米を病院食として提供しているほか、一般の方も利用できるレストランの食材として利用している。

また、平成４年から「母と子の農園」を設置して福田病院の利用者を対象に年２回（田植、稲刈り）の体験交流イベントを開催している。同イベントには毎回１００人前後の参加があり、農業体験だけでなく地元産農産物や手づくりの加工品等を味わってもらい、農業農村の魅力をアピールしている。

3　農業経営への効果

当地は標高が４００ｍ以上あり、平坦地と比べて米の反収が低い（多良木町５２７kg／１０ａ、水上村４９６kg／１０ａ）ため、通常栽培での米の所得は平坦地より少ない。しかし、本部会では、霊峰市房山の山腹から湧き出る清水を用水としていること、また害虫の発生もほとんどないことなど、当地ならではの利点を活かした付加価値の高い安全安心な米づくりを行うことにより通常の２倍程度の単価での販売を行い、所得確保につなげている。

4　地域への波及効果

当初は手探り状態で無農薬栽培を行っていたため生産が不安定で収量も少なかった（180kg／10a）。そのため、生産者が３人まで減った時期もあったが、ノウハウを蓄積することにより無農薬でも収量が安定するようになり、新たに無農薬栽培に取り組む生産者も出てきて、現在は７名になっている。また、減農薬減化学肥料栽培に取り組む生産者も出てきた。

一方、平成４年から毎年（平成２２年からは隔年）「母と子の農園」で実施している農業体験交流イベントを通じて、水上村の人・モノ・自然の魅力をアピールし、水上村のファンを増やす取組も行っている。

5　消費者等との交流

本部会の顧客である福田病院では、本部会の無農薬栽培米を病院食として供給することや、病院利用者（福田病院で生まれた子どもが小学校に入学した親子）に農業体験交流イベントへの参加を呼びかけることにより、安全安心な「食と農」についての理解を深める活動に取り組んでいる。

また、一般の方も利用できるレストラン内に本部会の取組を紹介するパネルを展示するなどして、病院利用者以外にも広く安全安心な「食と農」についてのアピールを行っている。

奨励賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞）

第１９回環境保全型農業推進コンクール応募事例取組要旨

分　　野	環境保全型農業		
応募区分	一般農業者		
氏名･名称	ＪＡ九重町飯田水稲部会		
規　　模	167 戸	主要作物名	水稲
		作付面積等	204ha

【取組の内容】

・ＪＡ九重町飯田水稲部会は、組合員数１６７名であり、平成１２年より高冷地の気象条件を生かした減農薬栽培の取組を開始し、平成１６年からは特別栽培米の栽培こよみに変更、管内全域での取組となっている。

・平成１７年にエコファーマーの認証と大分県独自の認証制度である e-na おおいたの認証を取得した。

・管内全地区約 200ha を対象に、種子更新、温湯消毒の取組などによる化学合成農薬の低減及び、堆肥や有機成分由来肥料の施用による化学肥料由来の窒素成分の低減に取り組んでいる。

・平成１９年より農地・水環境保全向上対策において冬期湛水の取組を開始、現在も継続中。

・平成１７年よりＮＰＯ法人九重トキゆめプロジェクト２１、平成１９年より九重ふるさと自然学校と連携し、飯田地区の豊かな自然を未来に伝える活動を支援している。

・ＪＡ女性部による地元小学校での「学童農園」事業により食農教育の実践に取組み、堆肥をはじめとする有機資材の使用をとおして環境保全型農業の啓発活動にも取り組んでいる。

・環境保全型農業の実践により水稲集荷率は９５％となり、1 等米比率も９５％を占めるようになった。また、冬期湛水により、カモ類や鷺の飛来が確認され、トキの棲む里への期待も高まる。

奨励賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞）

第１９回環境保全型農業推進コンクール応募事例取組要旨

分　野	環境保全型農業		
応募区分	一般農業者		
氏名・名称	株式会社　みやぎ農園		
規　模	1戸（スタッフ 16 名）	主要作物名	養鶏、野菜
		作付面積等	野菜 0.6ha、成鶏 8,000 羽

【取組の内容】

昭和 55 年にみやぎ農園現代表者の宮城盛彦氏とその兄が養鶏（ケージ飼い）を始めたが、盛彦氏は生産性重視で化学薬品による頻繁な疾病予防を行う近代養鶏に疑問を感じていた。そこで、昭和 63 年から盛彦氏の妻（朝子氏）が、盛彦氏の理想の養鶏を目指し試行錯誤しながら化学薬品に頼らない微生物を活用した平飼いによる経営を始めた。妻の経営が軌道にのったこと等を契機に、平成6年に盛彦氏は妻の経営体に籍を移した。

平成 20 年に株式会社みやぎ農園を設立し、養鶏を営む他、沖縄県認証の特別栽培農産物の確認責任者となり、地域で園芸品目（野菜・果樹）を栽培している生産者（栽培責任者）と連携し、減化学合成農薬・減化学肥料で栽培した農産物の販売も行っている。当該法人の経営内容は以下の4部門である。

・「養鶏部門」：循環型農業にこだわり、微生物資材を活用して発酵させた餌と自社ほ場内で得た青草を配合し作製した餌・湧き水を与え、平飼いを行っている。採卵を行う他、廃鶏も地元のホテル等に食用として出荷している。また、鶏の飼育環境は自由に歩きまわれる平飼いとし、鶏にストレスが少ない状態で飼育している。

・「野菜部門」：特別栽培農産物の確認責任者として管理・指導した農産物の販売業務を行うだけでなく、化学合成農薬や化学肥料だけに頼らない微生物を活用した農業技術を生産者と共に実践し、普及を図っている。

・「加工部門」：自社農園の卵や沖縄県近海の海水塩、その他必要最小限の調味料を用いて自家製マヨネーズを作っており、商品は天然素材にこだわりをもつ販売店で取り扱われている。

・「地域づくり部門」：環境保全型農業に関する農家情報交換会を定期的に開催する他、新規就農者の支援活動も行っている。民泊事業で受け入れた修学旅行生を中心とする体験学習の企画、地域での伝統行事「ムーチー（鬼餅）づくり」のイベント事務局を務めるなど地域づくりにも積極的に関わっている。

特別賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞）

第１９回環境保全型農業推進コンクール応募事例取組要旨

分　　野	有機農業		
応募区分	活動支援団体		
氏名･名称	臼杵市有機農業推進室（大分県臼杵市）		
規　　模	５人	主要作物名	
		作付面積等	75 ha

【取組の内容】

平成２２年３月に「臼杵市有機農業推進計画」及び「ほんまもんの里みんなでつくる臼杵市食と農業基本条例」を制定し、同年４月臼杵市地域振興部農林振興課内に「有機農業推進室」を設置。

有機農業の基本となる土づくりのための完熟堆肥を製造供給する「臼杵市土づくりセンター」を平成２２年８月に設置し、製造された完熟堆肥「うすき夢堆肥」による有機農業推進を行っている。また、平成２３年１１月より臼杵市独自の認証制度として、「うすき夢堆肥」等の完熟堆肥を用い化学肥料を使わずに栽培した農産物について臼杵市長が認証する「ほんまもん農産物認証制度」を設けており、化学合成農薬使用のものを緑認証、化学合成農薬・肥料を使用していないものを金認証としている。

①新規就農者への支援内容

・平成１９年４月に臼杵市有機農業起業者誘致条例を施行。有機農業に取り組む新規就農者へ奨励金を交付。

・ほんまもん農産物お届け隊研修制度（ほんまもん農産物生産者への研修）を導入。

②生産拡大への取組

・３６品目の有機栽培事例集「ほんまもん農産物の作り方」を農家へ配布。

・臼杵市環境保全型農林振興公社には臼杵市の職員を配置し、「うすき夢堆肥」の運搬と散布業務を行う。

③活動の成果と今後の展望

・有機栽培面積７５ ha

（市外より参入した農業法人７社３８ ha、ほんまもん農産物生産者６０件１５ ha、その他生産者２２ ha）

・平成２５年度中には、生産者の顔や農産物販売店の検索が可能になる「ほんまもん農産物ＷＥＢサイト」を開設予定。